

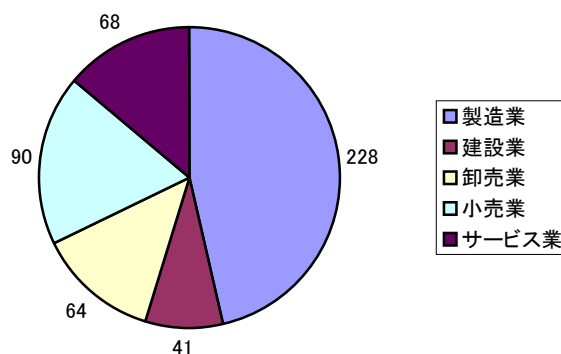
# 景気動向

## 業況は引続き足踏み状態 先行き見通しは慎重な見方

- 調査時点 平成20年4月調査(20年3月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 491社(回答率:61.4%)  
(製造業228社、建設業41社、卸売業64社、  
小売業90社、サービス業68社)
- 調査時期 4半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	228
建設業	41
卸売業	64
小売業	90
サービス業	68



### <全産業>

全産業の業況DIは前回(▲41.4)に比べて2.3ポイント縮小して▲39.1となり、横ばいで推移した。

業種別では製造業、卸売業のDIはわずかに悪化傾向を示し、小売業、サービス業のDIは改善傾向を示した。建設業のDIは改善を示した。

3か月先見通しは製造業、非製造業ともに横ばいを見通しているが、引き続き原油・原材料価格動向、公共事業の発注量、円高問題等の不安要因がみられる。

また、原油価格高騰と原材料価格の上昇を製品価格に転嫁できず収益に影響を生じている等のアンケート先からの声が聞かれた。

#### ■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
3月末時点	-39.1	-33.4	-47.2	-28.3
12月末時点	-41.4	-32.9	-44.4	-27.1
前回比	2.3	-0.5	-2.8	-1.2

#### ■全産業の業況

業況	3月末時点	12月末時点
良化	10.2	9.1
悪化	49.3	50.5
DI値	-39.1	-41.4
前回比	2.3	-9.4

#### ■3月末時点から見た

#### 全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	7.5
悪化	45.6
DI値	-38.1

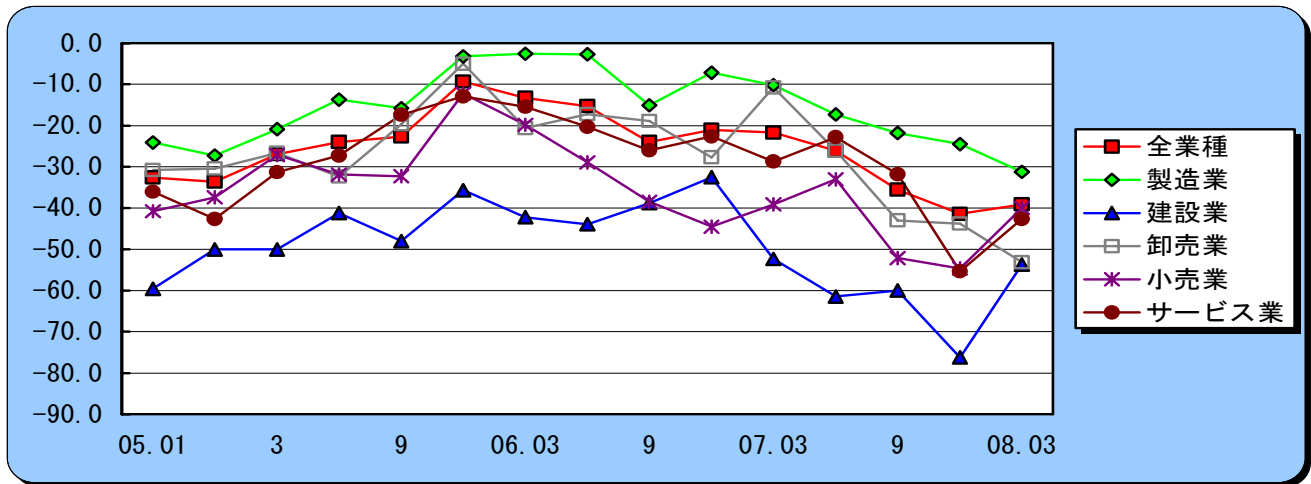
#### ■製造業の業況

業況	3月末時点	12月末時点
良化	12.7	14.4
悪化	43.9	38.9
DI値	-31.2	-24.5
前回比	-6.7	-4.5

#### ■非製造業の業況

業況	3月末時点	12月末時点
良化	8	4.6
悪化	54.0	60.2
DI値	-46.0	-55.6
前回比	9.6	-13.5

## ■業種別業況DI値推移グラフ



### <製造業>

業況DI値	
前年比	-31.2
先行き	-27.2
前回比	-6.7

対象企業	354
回答企業	228

業況・売上はわずかに悪化を示し、採算・資金繰りはいずれも横ばいを示した。

業種別にみると「ニット」「縫製」「印刷」「金属」の業況の前回比は改善傾向を示した。「食料品」「酒造」「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「輸送用機器」の業況の前回比は悪化傾向を示し、「木材・木製品」「プラスチック」は横ばいを示した。「一般機械」「電気機器」「精密機器」は業況が悪化に転じた。3か月見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのいずれも横ばいを見通している。

業種別にみると「織物」「ニット」「木材・木製品」「窯業・土石」の業況はわずかに改善を見通し、「食料品」「酒造」「金属」「プラスチック」は改善を見通している。「一般機械」「電気機器」は横ばいを見通している。一方、「縫製」「印刷」「鉄鋼・非鉄」「輸送用機器」「精密機器」「漆器」は悪化傾向を見通している。

### 自由意見

#### 製造業

- 原料、諸経費全てが予想つかない位上昇しており、採算も合わず、値上げも競争激化のため出来ません。関係者の方々に迷惑をおかけしない様、ただただ継続している感が有ります。半年間で損失は拡大しました。 【食料品】
- 中国問題で、蕎麦や篠竹などが入荷しにくい状態で、このままでは生産に支障が出て来る。 【食料品】
- 業務を縮小したことにより、少しずつ成果が上がってきた感じがする。 【食料品】
- 中国問題により、仕入れするもの全てが値上がりしたにもかかわらず、生産した商品の価格を上げる事ができない状況で、シワよせは下請けにきている。 【食料品】
- 業界は年々変化しており、今年も夏・秋物の予想がつかないが大きく変わると思う。我々もそれに乗り遅れることなく頑張りたい。 【縫製】
- 原油価格の高騰により原材料の価格が上昇しているが、それを販売価格に反映させると客離れにつながる。その点が厳しい状況である。 【木材・木製品】
- 住宅業は、大不況です。 【木材・木製品】
- 仕事の量が激減し、価格もダウン。材料費高騰で採算がとれず、このままでは赤字になりそうです。 【印刷】
- 昨年11月末から地域の景気は一段と悪化していると感じます。 【印刷】
- 生コン業界は、最悪です。 【窯業・土石】
- 4月以降に客先の状況がサブプライムローン問題の影響、国会の不透明等に依り、需要が激変する事を心配します。 【窯業・土石】
- 何しろ、ひどいの一言です。 【窯業・土石】
- 鋼材の値上りで苦勞している。 【金属】
- 材料費、燃料費のコストアップが経営を圧迫している。 【金属】
- 受注が変動し、予想通りに行かない。 【金属】
- 急な受注状況の悪化に加え、急な材料価格の値上りと、顧客からの価格切り下げにより、今年中は厳しい状態が続くと思う。 【金属】

○大型トラック用部品は3～5月同等、6月以降上向き生産。乗用車用は3～5月下降。	【金属】
○アメリカのサブプライムローン問題及び急激な円高により自動車販売台数がダウンし、受注量が減っている。	【一般機械】
○米サブプライムローンの影響で予断を許さない状況。	【一般機械】
○資材のコスト高に加え、生産調整で受注が低迷。	【一般機械】
○今後の受注動向が不明で、先が読めない環境が続いており、常に不安が残る。	【電気機器】
○受注減少に合わせ、受注単価も低下し続ける中、最低賃金上昇と公的負担の益々の上昇にて、今後の恐慌が懸念される。	【電気機器】
○鋼材単価の上昇と入手難(ロール材)が続いており、中小企業にとっては死活問題である。公共工事は受注計画にのせられない状況にある。	【輸送用機器】
○金属材料の価格変動と、原油高騰による副資材他の価格変動により、変動費が上昇している。	【精密機器】
○仕事量が減少して来ていると思う。先行きが見えないので不安を感じる。	【精密機器】
○改善の方法が皆無です。	【プラスチック】
○重油の価格が毎月上っていて非常に利益を圧迫している状況である。これでは生産工場としては、回っていかなくなる可能性大である。	【プラスチック】

## <建設業>

業況DI値	
前年比	-53.7
先行き	-61.0
前回は	22.5

対象企業	72
回答企業	41

業況・売上は改善を示し、採算は横ばい、資金繰りはわずかに悪化を示した。業種別にみると「土木」「建築」の業況の前回は改善傾向を示したが、前回調査時「良化」ゼロ回答の反動等もあって改善の動きとなっているものと思われる。3か月先見通しの業況・売上はわずかに悪化を見通しているが、採算・資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「土木」の業況・売上は悪化を見通し、採算・資金繰りは横ばいを見通している。「建築」の業況・売上・資金繰りはわずかに改善傾向を見通している。

### 自由意見

#### 建設業

○困った世の中になりました。先行き不透明です。	【土木】
○県・市の入札制度改革と地場企業の理解ある地元業者への最優先発注。	【建築】
○鋼材の値上がりが止まらない。又、入手に納期がかかり過ぎる状況が到来。	【建築】

## <卸売業>

業況DI値	
前年比	-53.1
先行き	-45.3
前回は	-9.3

対象企業	106
回答企業	64

業況・売上・採算・資金繰りはいずれもわずかに悪化傾向を示した。業種別にみると「青果物」の業況はわずかに改善を示したが、「衣服」「飲食料」「鮮魚」「機械器具」「建築材料」は悪化傾向を示した。3か月見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのいずれもわずかに改善傾向を見通している。業種別にみると「衣服」「鮮魚」「機械器具」「建築材料」も改善傾向を見通しているが、「飲食料」「青果物」は悪化傾向を見通している。

### 自由意見

#### 卸売業

○暫定税率廃止になればガソリン・軽油代が少なくなり助かる。	【青果物】
○受注減の厳しい業況の中、生産性向上と効率の経費の運用が今後の課題である。	【機械器具】
○仕入単価の上昇が原油高の影響で起きている。円高もあり今後の不安要素が大きい。	【機械器具】
○先行きの環境は多少良く成ると思うが、競争が厳しく、仕事も減少が予想される。	【建築材料】
○仕入単価の上昇が続き、販売単価への転嫁に苦慮。	【建築材料】
○業界内での倒産が多く、これから先の展望が見えません。	【その他】

## <小売業>

業況DI値	
前年比	-40.0
先行き	-44.5
前回比	14.6

対象企業	161
回答企業	90

業況・売上・採算・資金繰りはいずれもわずかに改善を示した。業種別にみると「中小スーパー」の業況はわずかに悪化を示し、「衣料」は横ばいを示した。「飲食料」「家電品」「自動車販売」「家具・建具」「大規模店」は改善傾向を示している。

3か月見通しは、業況・売上・採算は横ばい、資金繰りはわずかに悪化を見通している。業種別にみると「家電品」の業況はわずかに改善傾向を見通し、「中小スーパー」「衣料」「家具・建具」の業況は悪化傾向を見通している。

### 自由意見

#### 小売業

- 大型店の出店規制をする事。全部売上げが東京へ集中してしまい、地方が壊滅する。【衣料】
- 商店街全体の人の流れが少なくなっている様だ。土、日曜日は、まったくと言って良い程人通りがない。【衣料】
- 同業者は量販店の売価についていけず、大部分の店は閉店を考えている様です。出来れば私達もとも思いますが。【飲食料】
- 値上げをした分売上高は上ってはいるが、種々の経費の増加で、利益が出てこない。経営はとても大変です。【飲食料】
- 仕入価格の高騰で、採算は悪化すると思われます。仕入価格上昇分を売価に転嫁できない。今後厳しくなると思いますが。【飲食料】
- 3月に大型店がオープンし、地域の各店舗は影響大。【飲食料】
- 仕入単価の上昇、大型店の販売競争激化の為、販売単価を下げての店経営です。工事だけに絞りましたが、高齢者の方に頼まれてやむなく販売も。どうにか現在に持ちこたえております。【家電品】
- 政治力で何とか景気を良くしてほしいです。【家電品】
- 昨年より需要が低下の感有り。高齢者の購入が少なくなった。【家電品】
- 量販店のつぶし合いに巻き込まれない様に。【家電品】
- ガソリン税の問題、昨年同期より20%以上ガソリン代が高くなっている。【自動車販売】
- 売上、受注減少で建設業の破産者が多いのが問題だ。【自動車販売】
- “格差”ますます鮮明に。【家具・建具】
- 業況不振のなか、改革を試みてなんとか継続維持発展することは、至難の業だと思う。しかしこういう時だからこそ、自らひきしめて信用度を高め、誠意ある仕事に専念すべきと思っています。【家具・建具】

## <サービス業>

業況DI値	
前年比	-42.6
先行き	-45.6
前回比	12.7

対象企業	107
回答企業	68

業況はわずかに改善を示し、売上は横ばい、採算・資金繰りはわずかに悪化を示した。業種別にみると「観光旅館」「タクシー」「運送」「自動車整備」「情報サービス」の業況はわずかに改善傾向を示した。3か月先見通しの業況・売上は横ばいを見通し、採算・資金繰りはわずかに改善を見通している。業種別にみると「観光旅館」の業況・売上・採算・資金繰りはわずかに改善を見通している。「運送」の業況の見通しはわずかに改善を見通しているが、「タクシー」「自動車整備」「情報サービス」の業況はわずかに悪化傾向を見通している。

### 自由意見

#### サービス業

- 過去10年で、この1年が最も悪い。【旅館・ホテル】
- 景気に左右されない企業を目指します。【旅館・ホテル】
- 他社が新規顧客開拓の為に改装及び新設備の導入を次々と図っている中、20年前と同じでは集客は不可能。【旅館・ホテル】
- 暫定税率は3/31で廃止すべきです。【タクシー】
- 燃料高騰による経営悪化。【運送】
- 相変わらず原油価格の高騰が続いています。どこまでいくのやら？われわれ運送業界は、もう既に限界

に来ています。値上り分を運賃に転嫁出来るのであれば、いくら値上りしてもいっこうに構わないのですが、出来ないでいるのが現状です。サーチャージ制を導入する話も出ているようですが、うまくいかないように思います。せめて暫定税率が廃止になり、本則税率15円でいってほしいと願っております。

【運送】

---

○原油高と競合大手進出の影響がある。

【その他】

---

○大は小を呑み、弱肉強食格差社会の中で、いかに生き残るか、大変な時代です。

【その他】

---